

いわて平泉米だより

令和8年10月号

稲刈り後の作業

稲がしっかり育った田んぼでは、土にすき込む稲わらの量が多くなります。また、稲刈り後も暖かい日が続くとひこばえも伸びやすくなります。稲わらは、秋のうちか春の早いうちに土に混ぜ込んでおきましょう。その際は分解を助ける資材（石灰窒素やわらゴールドなど）を一緒に入れるのがお勧めです。

※すき込みが遅れて分解が十分でないまま水を入れると、土の中でガスが発生してしまいます。稲の育ちにばらつきが出たり、下葉が黄色くなったりする原因になりますので、早めの準備が安心です。

紋枯病防除

紋枯病は、稲わらや畦畔の雑草についている菌核が伝染源となるため、今年度に多発した圃場では、次年度も多発しやすくなります。紋枯病が発生した圃場では、以下の内容を参考に対策を実施しましょう。

【紋枯病対策】

○圃場準備

- ・代かきによって浮いた稲わらはすくい取り、圃場内の菌核の密度を下げましょう。
- ・窒素肥料の多用は避け、過繁茂とならないようにしましょう。

○育苗箱施用による防除

- ・紋枯病に登録のある育苗箱施用剤を使用しましょう。

○移植

- ・密植は避け、適切な栽植密度（60～70株/坪）としましょう。

○本田防除

- ・7月下旬に圃場を観察し、発病が見られた場合は、茎葉散布を行いましょう。